



「地域福祉第一線」では、さまざまな地域福祉活動に先駆的に取り組む市町村協や団体、または人物などを取り上げ、その活動を紹介します。

住み慣れた地域の中で いつまでも

～曾於市社会福祉協議会大隅支所
小規模多機能ホーム「より愛さかもと」～

曾於市大隅町の山あいにある小さな集落の中に、利用者だけでなく地域の方がたが集う小規模多機能ホーム「より愛さかもと」があります。曾於市社会福祉協議会が運営するこのホームは、社会福祉協議会が実施した地域住民のニーズ調査をきっかけに誕生し、地域福祉活動における拠点づくりに取り組んでいます。



地域の中で暮らし続けたい!

～ニーズ調査から見えてきた住民の願い～

平成18年4月の介護保険制度の大幅な改正を控え、旧大隅町（現曾於市）社会福祉協議会では、地域住民から求められているサービスを実現するため、平成17年9月に町内60歳以上300人を対象とした、日常生活におけるニーズ調査を実施しました。その結果、一人暮らし41.7%、高齢者世帯が34.3%という中、介護や健康についての不安、災害時の不安の声が多く挙げられていましたが、実に9割以上の方が「将来も住み慣れた自宅や地域で暮らし続けたい」と希望されていることがわかりました。介護が必要になっても、可能な限り慣れ親しんだ地域で、親しい方がたに見守られ、その人らしく暮らし続けるためにはどのようなサービスの構築が必要なのか、社会福祉協議会では検討を重ねました。

「より愛さかもと」開所までの経緯

平成17年

7月 「これからのサービスを探る 検討会」を月2回のペースで実施。地域住民へのニーズ調査について検討を行う

9月 日常生活ニーズ調査実施

12月 調査の結果の分析をもとに、地域密着型サービス「小規模多機能型居宅介護事業所」の開設を検討。ニーズ調査の結果を踏まえ開設候補地の検討・選定を行う。

平成18年

7月 名称を「より愛さかもと」に決定。坂元地区の空き民家に開設を決定。開設に向けて行政との協議や、地域住民への説明を行う。

平成19年

1月 開所式

小規模多機能ホーム「より愛さかもと」の誕生

住み慣れた地域で暮らし続けたい。そんな願いに対応するためには、一人ひとりの気持ちにより添って生活を支援することが出来る「小規模多機能型居宅介護」が、求められているサービスに適しているのではとの意見がまとまりました。地域住民の十分な理解を得た上で、坂元地区で空き家となっている民家を借り上げ、スロープの設置、簡易な事務所の設置を行い、平成19年1月に小規模多機能ホーム「より愛さかもと」は誕生しました。開所以来、毎日のように近隣の方が訪れ、近くにある保育園や小中学校の子どもたちとも年間を通じて交流が行われています。社会福祉協議会としても関わりの深い民生委員児童委員、自治会、長寿クラブや地域住民が主体となる校区社会福祉協議会の活動とも連携し、地域に根ざした存在ともなっています。



地域に根ざしたサービスを、地域とともに

地域住民の声を活かして生まれた「より愛さかもと」。これからの取り組みについて、管理者の伊勢悦子さんにお話を伺いました。



『日頃から地域福祉活動を積み重ねてきた社会福祉協議会だからこそ、地元地域の理解と協力が得られた。今後は、認知症や介護についての勉強会を開催するなど、更に地域に根ざした施設となれるよう、ここ「より愛さかもと」から情報を発信していきたい。』



小規模多機能ホームとは

介護保険サービスの「小規模多機能型居宅介護」が正式名称で、民家などを利用した住宅に、通い、泊まり、訪問などの複数の機能を組み合わせた地域密着型の高齢者向けの施設のことをいいます。



「より愛さかもと」のある一日

朝……それぞれ都合のよい時間にお迎え
午前…認知症の進行予防のために新聞の切り抜きを音読
お昼…ひじきご飯やお刺身など
午後…お昼寝や散歩、おしゃべりなど思い思いに過ごします
夕方…日記を記入後、ご自宅まで送迎

「より愛さかもと」は、単なる介護保険サービスの提供にとどまらず、住民をはじめ、近隣の施設や人材などのネットワークの協力を得ながら、地域福祉活動の拠点づくりの取り組みを続けています。

小規模多機能ホーム「より愛さかもと」

〒899-8103 曾於市大隅町中之内4035-11 TEL 099(481)3666